



京都国際学生の家 Haus der Begegnung (HdB)

第5回公開講演会 **入場無料**

日時：2023年6月17日（土）13:00～16:10

場所：京都教育文化センター302号室

〒606-8397 京都市左京区聖護院川原町4-13 TEL. 075-771-4221

HdBは1965年より59年間、外国人学生と日本人学生の出会いの家として活動してきました。その歴史と現在の活動状況、未来への展望を卒業生と在寮生との講演で紹介させていただきます。

【オンライン配信について】

当日 Zoom を利用したオンライン配信を行います。お気軽にご参加ください。

トピック: HdB 第5回公開講演会

時間: 2023年6月17日 12:30 PM より入室いただけます。

Zoom ミーティングに参加する

<https://us06web.zoom.us/j/89257584323?pwd=MW9weG5Xb0dUVFNlZGhyVVhYZlplKUT09>

ミーティング ID: 892 5758 4323

パスコード: 996326

開会の辞

13:00～13:10 内海 博司（理事長、京都大学名誉教授）

第I部 HdBで育った先輩達

13:10～14:00 パンデミックと自己免疫

橋本 求（大阪公立大学医学部膠原病リウマチ内科 教授）

14:00～14:50 Begegnung of people in HdB, Begegnung of atoms in the lab

Cédric Tassel（京都大学大学院工学研究科物質エネルギー化学 准教授）

第II部 HdBの過去、現在、未来

15:00～15:30 外国人学生及び日本人学生から

在寮生有志（福田 彩乃、目木 涼介、Liu Xiacong（劉 笑聡））

15:30～16:00 ハウスで学んだこと：平和・共生・国際協力

村田 翼夫（評議員、筑波大学名誉教授）

閉会の辞

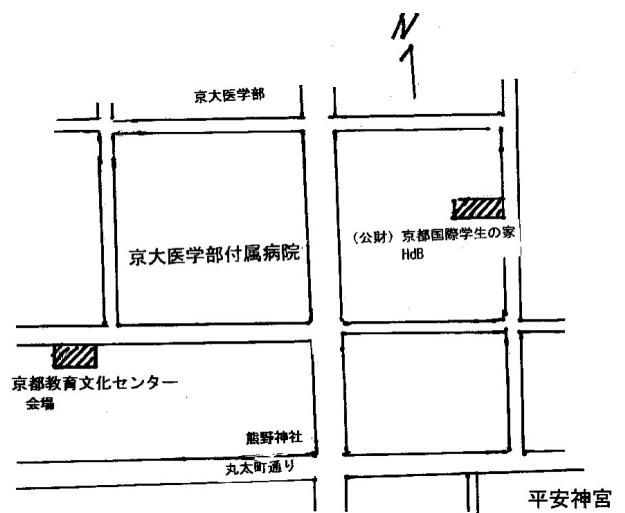
16:00～16:10 吉村 一良（理事、京都大学名誉教授）

参加：来聴歓迎。どなたでも参加できます。

主催：公益財団法人 京都国際学生の家
後援：京都新聞

連絡先：(公財) 京都国際学生の家
京都市左京区聖護院東町 10
電話/FAX：075-771-3648

ホームページ：<http://hdbkyoto.jp/>



橋本 求 大阪公立大学医学部膠原病リウマチ内科 教授「パンデミックと自己免疫」

要旨：2019年に始まったコロナ禍もようやく終わろうとしています。人類はこれまで幾度も感染症のエピデミック・パンデミックを経験し、それを克服するたびに、より「清潔な」社会を実現してきました。しかし一方、近年はアレルギーや自己免疫疾患など「免疫暴走による病」が増えています。なぜ免疫が、病原微生物でなく「自己」を攻撃するようになったのでしょうか？本講演では免疫の不思議な世界をご紹介します。

略歴：1974年東京生まれ。2000年京都大学卒業。2011年京都大学医学部附属病院リウマチセンターを経て、2021年より大阪公立大学膠原病内科学・教授 専門はリウマチ膠原病で、自己免疫疾患の発症メカニズムについて基礎・臨床の両方向から研究を行っています。

Cédric Tassel (京都大学大学院工学研究科物質エネルギー化学 准教授)

「Begegnung of people in HdB, Begegnung of atoms in the lab」

要旨：I arrived Japan in 2006 as an internship student and was introduced to the house by Prof. Yoshimura, a former housefather. Both my working life and personal experience in Kyoto university and in HdB made me want to settle in Japan. In this house, I met my wife and some of my best friends to this day. The HdB environment fostered me as a better individual and researcher. In this talk, I will present both my time in HdB between 2006 and 2009 and my research that focuses on generating new energy materials for batteries, photovoltaics, superconductor and so on. In my work, we need to mix atoms together and create new cutting-edge crystal structures to trigger new energy functions. Encounter of elements, like human beings, can be a tremendous challenge but can change one's life and society.

References：The following works will be introduced....in a fun way of course!

<https://www.nature.com/articles/nature06382> <https://www.nature.com/articles/s41467-020-20370-2>

<https://www.science.org/doi/10.1126/sciadv.abf7883>

村田翼夫 (評議員、筑波大学名誉教授) 「ハウスで学んだこと：平和・共生・国際協力」

要旨：ハウスではいろいろなことを学びました。今回は、主に学んだこと3点について述べます。第1は平和の追求：初代ペアレントの稲垣博先生は、それを強調されました。特に、共生と経済格差の縮小が重要です。第2に共生のあり方：ハウスの生活や外国でお世話になった元寮生との交流体験を通して考察します。第3に国際協力：ハウスでは日本人学生と外国人留学生が共住して協力し合っています。ハウス・チームによる運営にも特色があります。それらの観点を踏まえ、筑波大学に設立した「教育開発協力研究センター (CRICED)」におけるセンター長としての経験を述べることにいたします。

略歴：1967年3月 京都大学教育学部卒業/1972年6月 カリフォルニア大学バークレー校教育研究科修士号取得/2008年10月 京都大学教育大学院博士号(教育学)取得。

1967年～1970年 京都大学教育学部助手/1968～1970年 マラヤ大学非常勤講師/1973年～1980年 国立教育研究所研究員・主任研究官/1980年～2004年 筑波大学教育学系助教授・教授/2004年～2007年 大阪成蹊大学経営情報学部教授/2007年～2014年 京都女子大学発達教育学部教授/2005年～2021年 国際教育研究フォーラム会長